MARUSHIN

SUSTAINABILITY REPORT 2025

MARUSHIN

目次

Introduction

02 サステナブル方針
03 会社概要･子会社・沿革
05 経営理念･未来を紡ぐ取り組み
07 SDGs目標対応表
09 サステナブル空間

Products

19 丸眞マニフェスト
21 進捗率
22 環境に配慮した素材の採用
23 サステナブルマークの作成
25 LLP(Long Lasting Product)
27 社会支援ブランド・支援内容と対象ブランド
37 LLP商品寄付金額

Social / Recycle

40 緊急・災害支援、24時間チャリティーイベント
41 廃棄されるものから生み出す

43 第三者意見

丸眞では、経営理念と行動指針MMRの概念を軸とし、

100年企業、そして選ばれ続ける企業を目指します。

2030年までの長期目標を基に

サステナブル活動に取り組んでいます。

Future Vision2030

丸眞株式会社と未来を紡ぐ

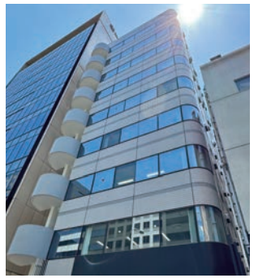
丸眞は、タオルを中心とした繊維製品を事業の柱として、コンシューマーをはじめとした関わる全ての人々の「夢と楽しさにあふれる未来」を”紡ぐ”ために、常に挑戦をしています。サステナビリティに配慮した企業経営は、より一層重要な課題です。ものづくりにおける環境への取り組みだけでなく、より早く･より正確にコンシューマーの元へ商品をお届けするための高度な自社物流機能の設備、物流ＩＴ人財の増員を推進していきます。
丸眞の商品を購入してくださるコンシューマーの方々、パートナーの皆様、丸眞で働く従業員、従業員の家族、そして地域社会すべての人から選ばれ続ける企業を目指します。
私たちは、世界の MARUSHIN、そして 100 年企業を目指すとともに、豊かな社会の発展に寄与できるよう、挑戦・革新を続けます。

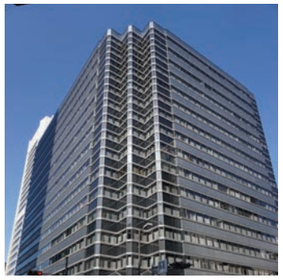
会社概要

丸眞は昭和 41 年（1966年）に名古屋市内にて創業。タオルを中心とした営業活動で基盤を築き、1980年代には、任天堂、講談社、サンリオ等と提携、以後スタジオジブリ、ウォルト・ディズニー、ワーナーブラザース等、大手キャラクターライセンスビジネスにも業界のファストランナーとしていち早く着手してきました。
30周年を機に社名を「丸眞タオル株式会社」から「丸眞株式会社」に変更し、同時に愛知県瀬戸市に物流センターを設置。タオル製品のみならず、寝装品・贈答品・インテリア・雑貨等に至るまで幅広い繊維製品の商品企画・製造・卸販売業務、及び貿易業務を行う繊維商社として、国内トップクラスの業績を誇っています。

創業当時

名古屋本社

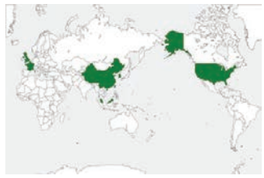

東京支社


大阪支社

瀬戸物流センター

子会社

丸眞香港有限公司
Marushin Sun Heart(H.K.)Limited



2014 年 7 月に設立しました。今後はこの『丸眞香港有限公司』を拠点とし、日本国内だけに留まらずアジア、そして世界へと事業拡大を目指します。長年培ってきたものづくりのノウハウと情熱で、世界中のコンシューマーの皆様へより良い商品をお届けします。

株式会社 水野

OPIST
MIZUNO CO.,LTD.

2022 年 7 月より丸眞の子会社となりました。国内および海外にて企画開発したラグ、インテリアファブリックやカーペットなどの商品を展開している会社です。コンシューマーの皆様に満足し、また安心して使っていただける商品を提案できるよう、常にクオリティーの高い商品開発を目指し、さまざまな用途に合わせた新しい商品をお届けします。

企業HP

会社沿革

- 1966 名古屋市千種区にて丸眞商店創業
- 1968 丸眞タオル株式会社設立
- 1986 任天堂と提携「スーパーマリオ」商品化
- 1989 設立20周年記念
サンリオと提携「サンリオキャラクター」商品化
- 1994 スタジオジブリと提携「となりのトトロ」商品化
- 1996 丸眞株式会社に社名変更。
本社を名古屋市守山区に移転。
瀬戸市日の出町に丸眞株式会社「瀬戸物流センター」竣工
- 1999 ムーミンキャラクターズ社と提携「ムーミン」商品化
- 2000 東京都中央区東日本橋に東京支社を開設
- 2002 ウォルト・ディズニーと提携「ディズニーキャラクター」商品化
- 2004 愛知万博「愛・地球博タオル」販売開始
- 2007 大阪市中央区久太郎町（本町）に大阪支社を開設
- 2014 丸眞香港有限公司設立
- 2017 創業50周年記念
代表取締役交代 眞下一成就任
東京支社を日本橋2丁目に移転
- 2018 大阪オフィスを大阪市中央区本町に移転
名称を大阪オフィスから大阪支社へ変更
- 2020 「オリンピックタオル」販売開始
- 2021 CSR対象商品「LLP」商品の開発
2021年～2022年 本社大改装
- 2022 株式会社水野を子会社化
丸眞マニュフェスト策定
- 2024 東京支社を新川一丁目に移転
- 2025 大阪万博
- 2030 丸眞マニュフェスト達成

丸眞の経営理念

私たちは「MARUSHIN」の商人として未来を紡ぎ、

チャレンジ精神を持って世界中の暮らしを豊かにします。

行動指針

MARUSHIN's Merchant Roots

丸眞の商人としてのルーツ

01. Consumer First
何事においてもコンシューマーを第一に考え行動します。商人として常にコンシューマー目線に立ち考え、安心・安全で高品質な魅力ある商品やサービスを安定的に提供し続けます。

02. Ownership
商人として経営者目線を持ち、何事にも主体性を持って行動し利益を生み出します。

03. Samurai Spirit
謙虚な姿勢を持ち、礼儀・感謝を言動に表し、相手の立場で考え素直に行動します。
コンシューマーへの誠実さを忘れず、商人としての熱意を持って何事にも取り組みます。

04.Fast Runner
商人としてチャンスや問題に気付き、即断・即決・即実行します。自らの行動で周りを巻き込み、いち早く実現します。

05. Professional
プロである意識と学ぶ姿勢を持ち、知識・技術を磨き、商人としてコンシューマーの信頼と満足を追求し続けます。

06. Navigate
商人として高い目標を掲げ、現場・現物・現実を見て根拠のある予測をします。
長期的な目線で戦略を考え、計画性を持ち、攻めの行動とリスク対策を行います。

07. Create Value
日頃から好奇心を持ちアンテナを張り、コンシューマーの喜びのヒントを見つけます。固定観念にとらわれず、チャレンジし、商人として驚きや新たな発見に繋がる商品価値・サービスを提供します。

08. Upgrade
商人として常に疑問を持ち生産性と効率を意識して、良いものは伸ばし、
その上でより良いものを求めて改善・実行します。

09. Commitment
商人として掲げた目標を必ずやり遂げる強い意志・責任を持ち達成します。
たとえ困難が生じたとしても諦めず、スピード感を持ち、できる方法を考え必ず成果を出します。

10. Corporate Branding
一人一人が社会全体に目を向け、企業としての果たすべき役割を考え行動し、
世界中に選ばれる「MARUSHIN」になります。

未来を紡ぐ取り組み

MARUSHIN MANIFESTO

ものづくりにおいてサステナブルにアプローチできる6つの目標

PRODUCTS

商品を通しての社会貢献活動

RECYCLING

廃棄されるものを回収し子どもたちの笑顔や環境保護へと繋げる活動

SOCIAL

寄付支援や、社外へ向けた広報発信

丸眞の様々な取り組みはSDGs目標の達成につながっています。

目標達成のメカニズムとなるターゲットに沿って活動に取り組み、目指すべきゴールを明確にしています 。

Introduction

12-2 天然資源の持続可能な管理と利用

成果▶丸眞マニュフェスト

Products

2-2 あらゆる形態の栄養不良をなくす

成果▶国連WFP協会レッドカップキャンペーン

3-8 すべての人々に対する保健医療サービスの実現

成果▶JCV 子どもワクチン支援活動

ピンクリボン活動

サステナブルマーク

5-1 女性および女児に対する差別をなくす

成果▶プラン・インターナショナル プラン・グローバルサポーター

10-2 社会、経済、政治における包摂性の促進

成果▶盲導犬総合支援センター

シャイン・オン！キッズ×ライツ・アンド・ブランズ

11-5 自然災害による被害を減らす

成果▶JPF 緊急災害支援基金

15-2 森林減少の阻止と劣化した森林の修復

成果▶オイスカ「子供の森」計画

Recycling

3-8 すべての人々に対する保険医療サービスの実現

成果▶使用済み切手回収

プラスチックハンガー回収

ペットボトルキャップ回収

12-2 天然資源の持続可能な管理と利用

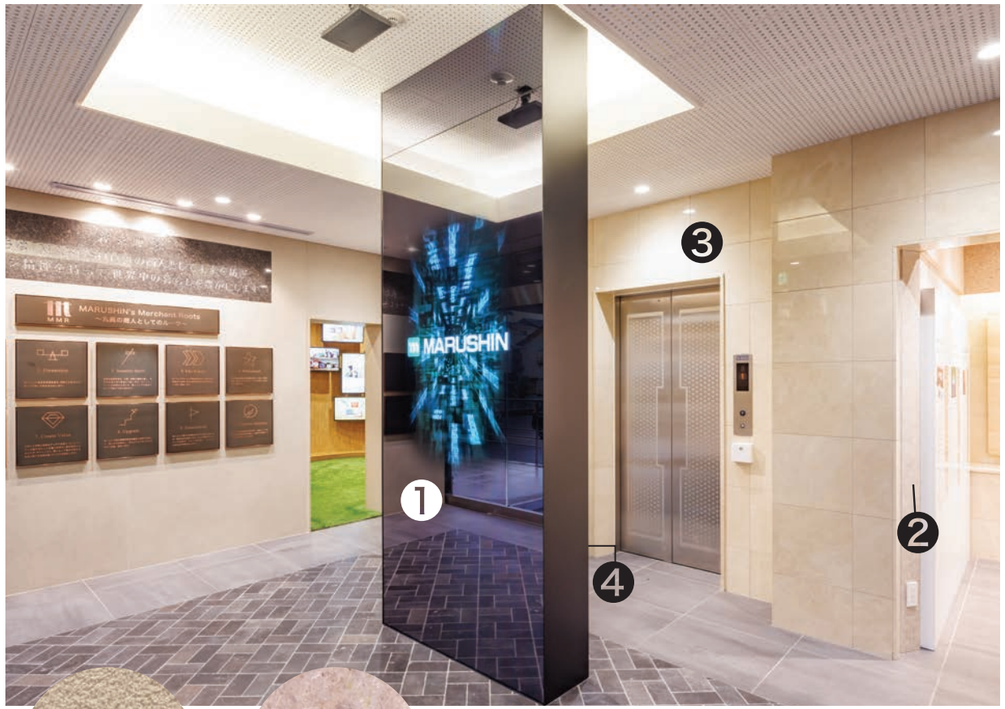
成果▶巻き芯回収

Social

11-5 自然災害による被害を減らす

成果▶災害支援

Sustainable space



エッグウォール

リフモ

こだわりのサステナブル空間

①無人受付システム「エントランスサイネージ」

弊社デジタルマネジメントストラテジー事業部開発の独自受付システムにより、受付対応のための時間・人員などのコスト削減が実現し、業務の効率化にも繋がっております。

②繊維リサイクル素材「リフモ」

繊維リサイクル率の向上を目指し、接着剤不使用で、100%繊維系廃材からできたリサイクル素材。 繊維廃棄物から開発した新素材であり、繊維リサイクル材を採用することで SDGs へも寄与します。

③従来の素材を活かした「大理石の壁」

エレベーター周りの壁は改装前の素材をそのまま利用。大理石の素材がエントランス空間を明るくしています。あるものを活かし、使い続けることもサステナブルの 1 つです。

④再生素材「エッグウォール」

受付システム「エントランスサイネージ」の裏の壁は廃棄素材である卵の殻から作られた再生素材。年間、卵殻の廃棄量は約 20 万 t といわれております。そのうち約 80%は費用をかけて、焼却・埋め立て処分をします。エッグウォールは卵殻の特徴を残し、調湿・消臭性能がある素材です。廃棄されていた資源を循環させ、貴重な資源を次代に引き継ぐ素材として活用しています。

サステナブルルームでできること

サステナブルルーム

2021～2023 年の本社大改装プロジェクトにて、本社 1 階は CSR・サステナブルの取り組みをご紹介する空間に生まれ変わりました。
サステナブルルームでは、社内 CSR 活動の一環であるペットボトルキャップ回収の実績や、LLP 商品をご覧いただけます。ブースには様々な再生素材・環境を考慮した素材が使用されています。

ペットボトルキャップコーナー

ペットボトルキャップは約 860 個で一人分のワクチンへ変わります。全社で 1 年間で回収したペットボトルキャップの数量と、その数量によりワクチンを届けることができた子どもの人数を展示しています。
1 年間の回収量を本社、東京支社、大阪支社、瀬戸物流センターの各拠点ごとに集計し、実際に集められた数量を視覚的に表し、ワクチンが届けられた子どもの人数はレゴブロックの人形のパーツで展示しています。

①LLP（Long Lasting Products）展示コーナー

売上の一部を社会支援団体に寄付する LLP 商品を毎月テーマを設定し、展示しています。

②安全性を保持した廃棄素材ボード「ストランドボード」

国内のヒノキや杉間伐材を原料にしているボード▶間伐材については P17

③使用済みタイルカーペット素材「塩ビタイル」

使用済みタイルカーペットの廃材を利用したタイル。産業廃棄物として埋立処理されることが多いカーペットをリサイクルすることで、埋立地に捨てられる廃材を減らし、持続可能な生産と消費活動に貢献しています。

④寄付付き商品「LLP（Long Lasting Products）のご紹介」

サステナブルルーム正面に配置した 10 個のモニター。こちらでは、丸眞オリジナルブランドである LLP の紹介をしております。

商談ルーム

商談や社内打ち合わせに使用する部屋も2部屋増設し、それぞれの部屋のテーマを設けております。地球環境を意識した「森」と「海」の2つのテーマです。

従業員が働きやすい環境はもちろんですが、日常の中で地球環境を意識することができるオフィスへと変化してまいります。

随時 CSR に関する打ち合わせを実施。活動の継続と高まりを目指し、取り組んでいます。

社員が海で集めた素材で
作ったオブジェ

海の部屋

海の部屋では、従業員が実際に海で拾ってきたゴミを、地球環境を守ることの大切さを象徴するものとしてオブジェにしています。また、この部屋の床材もスウェーデンの BOLON 社が作る地球環境に配慮した素材「ボロン」を使用しています。

「ボロン」はリサイクル素材を 33 %使用し、世界中で 15 の環境認証や健康認証を受けている素材です。

森の部屋

森の部屋で使用している椅子は地元愛知県企業のカリモク家具様の椅子で、サントリーのウイスキー樽を再利用して作られたものです。また、天井を覆う植物も再生ペットボトル、再生プラスチックを利用した素材で作られている「リサイクルフェイクグリーン」です。

日経オフィス賞　中部地方 奨励賞 受賞

2023 年に本社の大改装が完了しました。4 階の会議室と 5 階のラウンジは第 35 回日経ニューオフィス賞 中部地方 奨励賞を受賞しました。環境の整備や様々なデジタルシステムの導入により、今まで以上に効率的に業務を遂行出来るようになりました。今後も働きやすい環境とは何かを試行錯誤し、より生産性の高い丸眞へとアップグレード出来るように努めてまいります。

大会議室

本社で最も大きい会議室で、最大で 40 名入ることができます。様々な用途で使っている会議室で、大人数から 10 人未満の少人数で使用することもあります。また、外部から講師をお招きし、社内向けのセミナーも行っております。社内改装時に、大人数の会議でも話者の位置に関わらず声が聞こえる設計と設備を導入しました。音声設備の向上により、オンラインでのミーティングが活発になっています。設備の充実が、さまざまな働き方の後押しにも繋がっています。

デジタル機器の導入

デジタルホワイトボードを使用することで拠点をまたいだ会議でも、リアルタイムで資料共有が可能になりました。ホワイトボード上で書き込みやメモをしたことが、どの拠点でも同時に反映され共有できるので、他拠点とより自由度の高い会議を行うことができ、拠点ごとの情報共有スピードのラグを削減しています。

会議室には、会議用資料共有を目的としたiPadを設置。会議の際は、全員が会議用iPadを使用することで、資料を出力することなく会議の運営が可能になりました。全社として、資源の削減に努めています。

『SDGsと経済の基礎知識講話』
元パタゴニア・ジャパンビジネス創業社長 藤倉様

『SDGs研修』株式会社オフィスグラビティー 中川先生

丸眞では1〜3年目の従業員が対象の新人合宿研修、外部講師によるSDGs研修等の教育に力を入れています。他拠点や他部署の従業員とディスカッションを行い、新しい意見や価値を取り入れる機会を設けています。普段の業務以外で学ぶ場所を設け、従業員一人一人のアップグレードを目指した教育を今後も強化してまいります。

東京支社会議室LLP商品展示

サステナブルな展示室

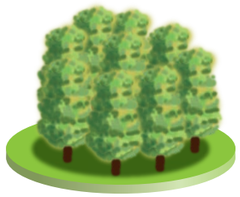
商品を展示している東京支社のCSRルームでは商品を飾る什器や備品等の細かい部分にも目を向けて100％サステナブルな部屋へと改造しました。

展示什器については間伐材をアップサイクルし、原料として使用した什器に入れ替えました。

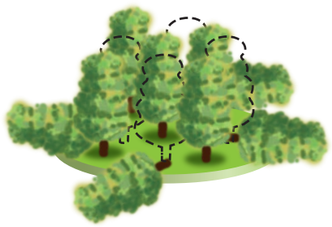
また、プライスカードを展示するものはコルクを使用し、商品を展示するスタンドもリサイクルした木製素材のサステナブルな備品を使用しています。各ブランドの紹介POPとして使用している額縁は元々建築現場で足場として使用されていた杉足場板から作られています。杉足場板は平均3-5年で現場での役目を終えていましたが、様々なインテリア小物に生まれ変わることで、長く使い続けることができます。

今後も丸眞の商品の魅力を伝えると共に、サステナブルな展示室へアップグレードすることにも努めてまいります。

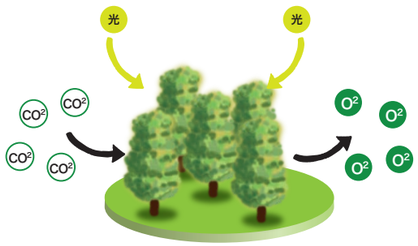
間伐材とは



木が育って窮屈になります。



弱い木や曲がった木を切ります。
切った木は間伐材として合板などに使います。



光も、風の流れもスムーズになり、
木がのびのび育つ元気な森になります。
残った木は、太い幹をもつ木に育ちます。

間伐材とは

樹木が成長して森林が混みあってくると、日光が地表まで届かなくなり、植物の成長を妨げてしまいます。森林を健全な状態に保つために、混み具合に応じて樹木を間引き、残した木の成長を促す作業が「間伐」です。

間伐を行うことで、残された木はのびのびと強く育つことができます。

間引きされた通常廃棄してしまう小経木も原料にすることで、資源を使い切る循環が生まれます。

東京支社のCSRルームでは商品を展示している什器は間伐材とOSB合板で作られています。普通であれば使用しづらい細かい木材を材料にすることができるため木材の利用率が高く、余ってしまう木材や製造後の丸太の芯など、資源を有効活用しています。

OSB 合板

OSB 合板による什器

Products

MARUSHIN | MANIFESTO 6 FOR 2030

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

「未来を紡ぐものづくり」

丸眞が日々開発している商品は様々な「人」が関わり、そして「地球環境」が関わります。責任を持って商品を開発するために丸眞ができること、未来を紡ぐものづくりとはなにか。
これからも安心安全な商品をコンシューマーへ届けることが私たち丸眞の使命です。安心安全な商品の提供と世界中の暮らしを豊かにするために「商品」「資材」「生産過程」の3点をテーマに、2030年までにコミットメントすべき6つの目標を策定いたしました。

PRODUCT

タオル製品をすべてサステナブル・コットンの素材へ

私たちは、コットンを素材とする商品開発を行うプロフェッショナルとして、地球環境に配慮した綿花を使用します。
綿花は一見すると環境に良い原料に思えますが、実はその栽培過程で農薬や肥料の過度な使用など様々な問題点があります。世界中で使用される殺虫剤の約 16%が綿花畑で使用され（2020 年時点）、従事する人が殺虫剤の被害により視覚障害を患ったり、また命を落とすなど、環境だけにとどまらず人体にも深刻な影響を与えています。
私たちは、製造者からコンシューマーまで全員にとって安心安全な素材としてオーガニック・コットン、プレオーガニック・コットン、リサイクル・コットンなど地球環境に配慮したサステナブル・コットンを使用して商品を企画・開発します。すべてのタオル製品のうち、2028 年までに 90%のタオル製品を、2030 年までにすべてのタオル製品においてサステナブル・コットンを使用します。

PRODUCT

すべてのポリエステル素材を再生ポリエステル素材、もしくは天然繊維へ

私たちは、商品に使用するポリエステルを再生ポリエステル、もしくは天然繊維へ切り替えます。
世界のプラスチックゴミは年間で約 800 万トンが海に流出していると言われています（2020 年時点）。さらに 2050 年には海洋中のプラスチックごみの重量が海のすべての魚の重量を超えることが予測されています。プラスチックは自然分解されず、数百年間以上もの間、自然界に残り続けると言われており、自然や生物など海の生態系に対して大きな悪影響を与えています。
私たちは、ポリエステル商品の企画・開発において、利用する素材を 2028 年までに 85%の製品を、また 2030 年までにすべてのポリエステル製品において、再生ポリエステルの素材もしくは天然繊維に代え、地球環境に配慮した商品を企画・開発します。

PRODUCT

製造工程で使用する染料を環境負荷の少ない染料へ

私たちが企画・開発している商品には、多くの染料が使用されています。
一般に工業界の製造工程で使用される染料には、発がん性のある有害物質が含まれており、また大気汚染の原因である揮発性有機化物や二酸化炭素の排出量を増やしているという問題があります。さらに汚水処理システムが整っていない一部の地域もあり、このような地域では染料自体や染料に含まれる有害物質などが含まれた廃水が流れています。その結果、世界の産業排水の約 20%が繊維製品の染色工程や仕上げの際に発生する廃水とも言われています（2019 年時点）。
私たちは、染色工程がもたらす「環境・健康・安全」への悪影響を減らすべく、環境負荷の少ない染料の使用率を 2028 年までに 80%、2030 年までに 100%を目指し、染料が地球環境へもたらす負荷を減らします。

MATERIAL

MARUSHIN ブランドラベルを 100%サステナブル・コットン及び再生素材へ

私たちは商品だけでなく、それに付随するブランドネーム・ラベルやその他のラベルの素材も環境に配慮した素材に代えて、サステナブルな商品を企画・開発します。
商品自体の素材がサステナブルなものであっても、そこに付いているラベルの素材までサステナブルなものでなければ、環境に配慮した商品とは言えません。これまでブランドネーム・ラベルや洗濯表示ラベルの素材は、ポリエステルなどの化学繊維の素材が中心でした。化学繊維は、原料調達の段階から石油などの限りのある資源を必要とします。化学繊維から再生素材に代えることにより、過剰な資源利用の削減や不要になった際の資源循環にも貢献することができます。
私たちは、2028 年までにすべての商品のうち 80%、2030 年までにすべてのラベルをサステナブル・コットン及び再生素材のものへ代え、サステナブルな MARUSHIN ブランドであり続けます。

MATERIAL

資材を天然素材もしくは再生素材へ

私たちは、ハンガーやフックなどの資材においても脱プラスチックを目指し、地球環境に配慮した商品を企画・開発します。
商品をお届けする際に付属するハンガーやフック、アンビタッチは欠かすことができない資材です。プラスチック製の資材の再利用率が 24%であるのに対し、紙製の資材の再利用率は 72%です（2023 年時点）。資材もプラスチック製から脱却し、リサイクル可能な紙素材の使用率をさらに高めることで、プラスチックが関わる地球環境への負荷も軽減することにつながります。
私たちは、製品の資材においても脱プラスチックを目指し、2028 年までに 80%の商品の資材を、2030 年までにすべての商品の資材を”脱プラスチック化”し、地球環境に配慮した商品を企画・開発します。

PROCESS

生産過程において使用するエネルギーを再生エネルギーへ

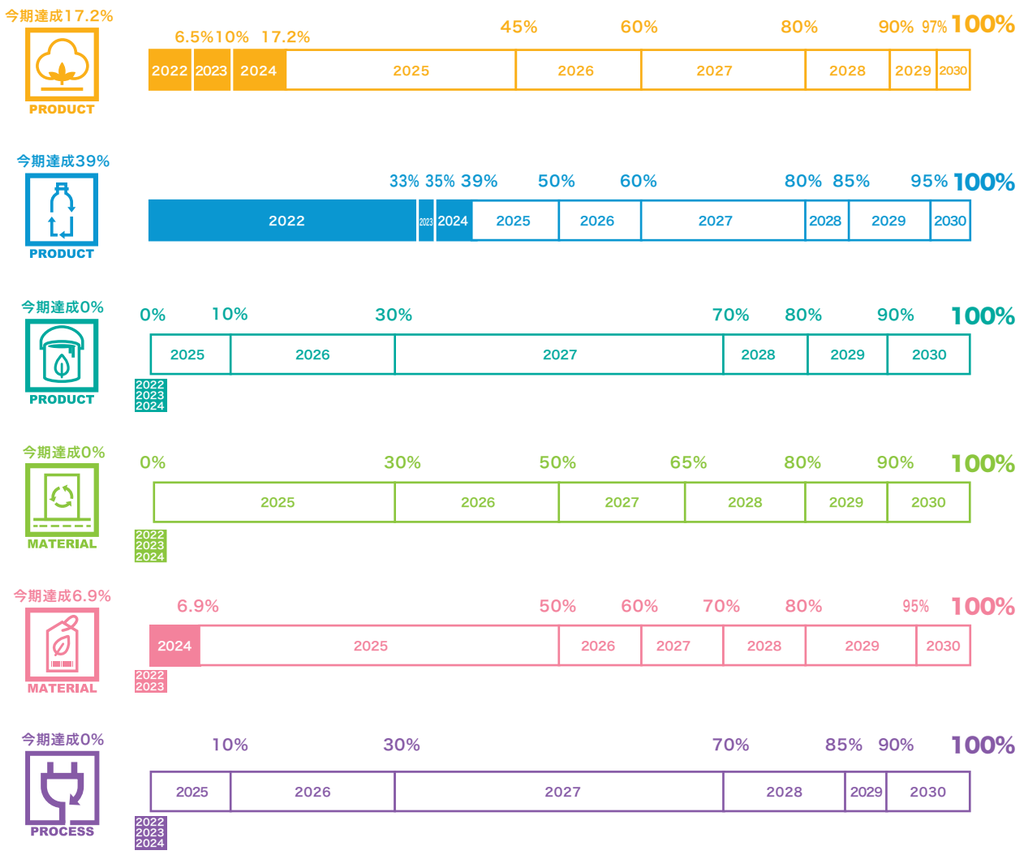
私たちは、商品が製造される工程やそこで発生する影響に対して向き合い、サステナブルな製造工程で商品を企画・開発します。
商品の製造工程である工場では、多くの電力が必要とされます。電気使用量だけを見ても、日本国内の製造業界全体での 1 ヶ月の電気使用量は一般家庭（集合住宅）での年間の電気使用量の5倍にも及ぶと言われています（2022 年時点）。そして、こうした電力使用によりCO_2の排出が増え、地球温暖化問題は年々深刻になる一方です。
私たちは、地球温暖化を抑制する一助として、2028 年までにすべてのサプライチェーンで使用する電力のうち 85%、2030 年までにすべての電力を再生可能エネルギーに移行します。

進捗率

安心安全な商品の提供と世界中の暮らしを豊かにするために

2030年までにコミットメントすべき6つの目標の

進捗率を定めながら取り組みを進めてまいります。



環境に配慮した素材の採用

サステナブルコットン

丸眞では、繊維商社として使い心地の良い商品をコンシューマーに届けることはもちろん、地球と人に配慮したサステナブルコットンを使用しています。サステナブルな生活に寄り添いながらも尚、商品・ブランドの世界観を引き出すことができるものづくりを続けています。オーガニックコットンとは認証機関に認められた農地で、農薬・肥料の厳格な基準を守って育てられた綿花です。

再生ポリエステル素材

現在、プラスチックによる環境汚染が繊維業界においても重要な課題になっています。丸眞では、回収したペットボトルを原料とした再生ポリエステルを使った商品を開発しています。再生ポリエステルの使用は石油の使用量や、使用済みペットボトルの廃棄物量の削減ができるため、近年繊維業界において注目されています。

該当商品は再生ポリエステルを 50 %以上使用しており、環境保全に役立つと認められた証として、エコマークを表示しています。

サステナブル資材

丸眞では、商品の素材自体だけでなく、ハンガーやフックなどの資材においても、地球環境に配慮した素材で企画を進めております。これまで使用していたプラスチック製のアンビタッチは麻製のひもへ、またフックについてもプラスチック製から紙製へと再生素材、天然素材へ移行しています。このような細かな資材にも目を向けて、資材も含めてサステナブルな商品を目指します。

※●抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。●抗ウイルス性試験は、ウイルス株:ATCC VR-1679（エンベロープ有）を25℃で2時間放置して実施しています。●抗ウイルス加工は、ウイルスの働きを抑制するものではありません。

サステナブルマークの作成

MARUSHIN
Sustainable Products

サステナブルなものづくりをより加速させていく取り組みの一つとして、丸眞オリジナルのサステナブルマークを作成しました。サステナブルな商品を生み出すプロフェッショナルであることを表すシンボルになるマークです。すべての商品にこのマークが付くよう、日々商品開発に取り組みます。

オーガニックコットン

オーガニックコットンとは、認証機関に認められた農地で、農薬・肥料の厳格な基準をまもって育てられた綿花のことです。そのため、土壌・水質汚染の問題や人体への影響が少なく、環境に配慮された繊維です。

再生ポリエステル

再生ポリエステルとは回収したペットボトルから作られたポリエステル繊維です。再生ポリエステル素材の使用は石油の使用量や、使用済みペットボトルの廃棄物の量も削減できます。

紫外線遮蔽加工

プールや海に行った際、紫外線を気にする方も多いのではないでしょうか。紫外線遮蔽加工とは紫外線の遮蔽率を向上させた素材です。生地を透過する紫外線を遮蔽（カット）する加工です。

制菌加工

抗菌防臭加工が臭いに着目した加工であるのに対し、制菌加工は繊維上の皮膚常在菌や有害細菌を特定して、増えないように抑制することを目的とした加工です。

抗ウイルス加工

抗ウイルス加工の目的は繊維製品に付着したウイルスの数を減少させて清潔に保つことにあります。どんな時でも赤ちゃんから高齢者の方まで安心安全に使っていただけるようにと考えられた加工です。

抗菌防臭加工

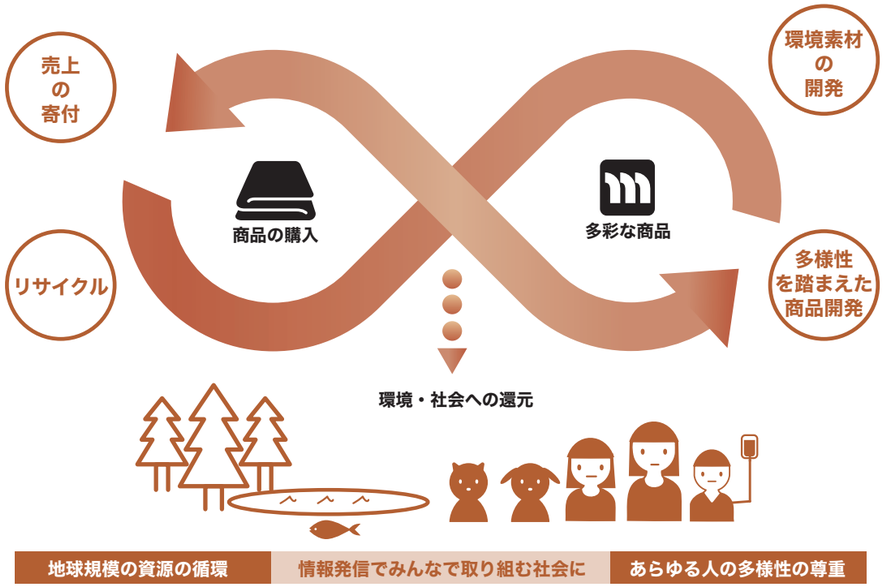
汗をかいた後、着ていた衣服から嫌な臭いがしてくることがあります。これは細菌が繊維に付着した汗や汚れを栄養源に増殖し、その時に分解されたものが嫌な臭いの主な原因になります。抗菌防臭加工は、臭いの原因となる繊維上の細菌の増殖を抑えて防臭する加工です。

接触冷感

熱伝導率・熱拡散率が高いことによって、肌の熱が生地に瞬時に移動することで冷たさを感じる仕組みです。

吸水速乾

生地に付着した汗などの水滴を素早く吸収し乾燥させる性能です。



Long Lasting Products

～未来へ続く商品～

丸眞では、売り上げの一部を社会支援団体へ寄付する商品を開発しています。社会支援に繋がる商品は「Long Lasting Products(= 未来へ続く商品)」と総称し、様々な丸眞オリジナルブランドが対象です。Long Lasting Products を通してコンシューマーの皆様の驚きや新たな発見に繋がる商品価値を提供し続け、コンシューマーの皆様と新たな未来を紡いでまいります。

Long Lasting Products の対象商品を

ご購入いただくことが、様々な社会支援に繋がります。

【対象ブランド】

子ども支援

「ヤップ ®」
「サンハート ®」
「ピッコリーノ ®」

→ 特定非営利活動法人 国連 WFP 協会

人道支援

「ポルッカパターン ®」
「ガッツ！ ®」
「ノーブルカラー」
「 いま marushin 」

→ 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム
認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）

環境支援

「ポルク ®」

→ 公益財団法人 オイスカ

動物支援

「ワンダフルピース®」

→ 一般社団法人 盲導犬総合支援センター

女性支援

「メニーメニー™」
「ピンクリボン」

→ 公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン
認定 NPO 法人 乳房健康研究会

医療福祉支援

「ムーミンのタオルを作ろう！」
「トアラ」

→ シャイン・オン！キッズ
アンリーシュ

子ども支援

飢餓と貧困の中に生きる世界の子どもたちへ、「学校給食」という希望を。

世界では今、学校に通うことができず、貧しい暮らしを強いられる子どもたちが 6,700 万人。子どもたちの 5 人に 1 人が慢性的な栄養不良に陥っています。

国連 WFP 協会が行うレッドカップキャンペーンでは、赤いカップを目印に様々な対象商品が発売され、集まった寄付が貧しい子どもたちへの給食支援に繋がります。2011 年に開始したこのキャンペーンでは、累計 2,800 万人以上の子どもたちに学校給食が届けられています。(2023 年時点)

丸眞は、レッドカップキャンペーンに賛同し、3 つの対象ブランドの売り上げの一部を寄付しています。

飢餓から救う。
未来を救う。
WFP
国連世界食糧計画

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

対象商品のご購入が、子どもたちの給食支援に繋がります。
▶30円で飢餓に苦しむ子どもに、1日分の給食を届けることができます。

福利厚生による社会支援

・まるガチャ

福利厚生の一環としてミニタオルなどが購入できるガチャガチャ (まるガチャ) を導入。まるガチャの売上を全額国連 WFP 協会へ寄付しています。今年度（2023 年 9 月～ 2024 年 8 月）は 42,200 円の寄付をさせて頂きました。

・お弁当

丸眞では昼食として、一部会社補助の日替わり弁当を食べることができます。今年度より、従業員のお弁当の注文額の一部を国連 WFP 協会へ寄付しています。従業員への福利厚生が社会支援につながる取り組みを、今後も実施してまいります。

対象ブランド

「ヤップ ®」

「yup!（ヤップ）」食品パッケージをモチーフにしたポーチなど食べ物にちなんだユーモア溢れる商品を展開中。

「サンハート ®」

「SUN HEART（サンハート）」夏を思いっきり楽しむ太陽のように明るく元気なデザインがポイント。自由で開放的な雰囲気が溢れるブランド。

「ピッコリーノ ®」

「piccolino(ピッコリーノ)」イタリア語で「小さくてかわいい」という意味。通園・通学が楽しく過ごせるようカラフルで元気なスクールアイテムにぴったりのデザイン。

2024年9月5日～9月9日フランス・パリ 『 Maison & Objet 』 出展

人道支援

ワクチンで助かるちいさな命を救いたい。

世界では 20 秒 に 1 人 、ワクチンがないために命を落とす子ども達がいます。認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）が行う子どもワクチン支援活動では、世界の子どもを感染症から守るためのワクチンを確保し、感染症の完全予防対策を支援しています。丸眞は子どもワクチン支援活動に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

©JCV

対象商品のご購入が、世界中の子ども達を感染症から守る活動に繋がります。

▶ポリオワクチンはわずか20円。100円で５人の子どもの命を守ることができます。

対象ブランド

porukka pattern®
「ポルッカパターン®」

porukka pattern（ポルッカパターン）
暮らしを大切にする北欧の仲間たちとの日々の生活を７つのテーマで表現。生活を彩る日常に寄り添った心地よいデザインが特徴。

福利厚生による社会支援　自動販売機の売上

名古屋本社、瀬戸物流センター内に設置している自動販売機で、購入金額の売上の一部を JCV 様へ寄付させていただいております。今年度（2023 年9 月～ 2024 年 8 月）は 182,340 円、JCV 様へ寄付させていただきました。
従業員が飲み物を購入することで、社会貢献に繋がる。従業員が日常的に取り組むことができる社会貢献活動として今後も取り組みを広げていきます。

人道支援

災害・人道危機から、人々の平和な生活を守るために。

現在、自然災害で避難を余儀なくされるリスクは過去約 50 年で災害件数が 6 倍に増加したといわれ、武力紛争の激化で人道危機はますます難化しています。ジャパン・プラットフォーム（JPF）が行う緊急災害支援基金では、国内外の自然災害による被災者、紛争による難民・国内避難民に、迅速かつ効果的に支援を届けるための活動に取り組んでいます。
丸眞は、緊急災害支援基金に賛同し、3 つの対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

©PWJ

対象商品のご購入が、災害から人々の生活を守る活動に繋がります。

対象ブランド

「ガッツ®」

「ガッツ!!」部活をモチーフにしたユニークでかわいいデザインが目を引く部活シリーズ。

NOBLE COLOR
「ノーブルカラー®」

「NOBLE COLOR(ノーブルカラー) 」
ホテルの客室で使えるような、しっかりしていて、柔らかボリュームのある極上のホテルスタイルタオルを展開中。

「いま marushin」

「いま marushin」いいモノをつくるをコンセプトに今治製の特徴を生かしたタオルを展開中。

環境支援

世界各地の子ども達とともに、緑の地球へ。

世界の森林は毎年約 1,000 万 ha、日本の本州の約半分に相当する面積が失われているとされています。公益財団法人オイスカが行う「子供の森」計画では、子ども達が学校や地域で苗木を植えて育てていく活動を通して「自然を愛する心」や「緑を大切にする気持ち」を養いながら地球緑化を進めています。この活動は、2023 年度末現在、37 の国・地域から 5,500 以上の学校が参加しています。丸眞は「子供の森」計画に賛同し、対象ブランドの売り上げの一部を寄付しています。

OISCA

Children's Forest Program
「子供の森」計画

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

©oisca

対象商品のご購入が、世界各地の子ども達の植林・育林の活動に繋がります。

対象ブランド

polku
「ポルク®」

polku（ポルク） フィンランドの自然の中を散歩するようにデザインを楽しんでもらいたいという意味をこめているブランド。

2023年9月6日~9月8日東京ビックサイト『ギフト・ショー』出展

動物支援

盲導犬とともに、行きたい時に行きたい場所へ。

現在、日本全国で活躍している盲導犬の数は 796 頭（2024 年 3 月現在）。盲導犬総合支援センターでは、目に障がいのある方、そのパートナーである盲導犬の育成を支援することで、盲導犬ユーザーと盲導犬がもっと安心・安全に、そして活き活きと歩くことができる社会を目指しています。丸眞は盲導犬総合支援センターに賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

＼ みつけた！私にできること。 ／
一般社団法人
盲導犬総合支援センター

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

写真提供：公益財団法人日本盲導犬協会

対象商品のご購入が、補助犬育成および障がい者の社会参加への支援活動に繋がります。

対象ブランド

wonderful peace
「ワンダフルピース®」

wonderfulu peace（ワンダフルピース）
補助犬とユーザーの「安らぎ」（peace）が、パズルのように「ひとかけら」（piece）ずつ繋がるように願いを込めたブランド。
2024 年から待望の猫柄もスタート！

2023年9月6日~9月8日東京ビックサイト『ギフト・ショー』出展

女性支援

乳がんで亡くなる女性を、1 人でも減らし、乳がん患者やその家族にとって優しい社会を。

現在、9 人に 1 人、毎年 10 万人の女性が乳がんに罹ると言われています。医療が進化した今でも、乳がんになった女性の約 20%が乳がんで亡くなっています。乳房健康研究会が行うピンクリボン活動では、乳がんによる死亡率を低下させるために正しい乳がんの知識を広める講演や女性検査技師の育成を進めています。丸眞は、ピンクリボン活動に賛同し、対象ブランドの売り上げの一部を寄付しています。

JAPAN SOCIETY OF BREAST HEALTH

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

対象商品のご購入が、乳がんから女性を守る活動に繋がります。

対象ブランド

「ピンクリボン®」

「Pink Ribbon（ピンクリボン）」乳がんの正しい知識を広め、早期発見・早期診断・早期治療の重要性を広めるシンボルマークであるピンクリボンのアイテムを展開中。

福利厚生による社会支援　ウーマンプロジェクト

丸眞では女性従業員が多数在籍する会社であるからこそ、女性の活躍を支えるウーマンプロジェクトの一環として、社員負担 500 円にて全女性従業員に乳がん検診を推奨しています。
商品を通して支援させていただいてる団体に、社内取り組みとして私たちが何か出来ないかと考え、2024 年度は乳がん検診受診者 92 人が各 500 円、計 46,000 円を乳房健康研究会へ寄付させていただきました。

女性支援

誰もが平等な世界の実現を目指して。

世界には、女の子を含むすべての子どもたちが直面している課題や不平等があります。
家庭や学校などでの暴力、早すぎる結婚や女性性器切除(FGM)などの有害な慣習、「女の子だから」というだけの理由でなされる数々の差別。教育を受けることが出来ない女の子たちは将来の選択肢さえ知らず、負の連鎖から抜け出すことができないことも多くあります。
プラン・グローバルサポーターは女の子を含むすべての子どもたちが直面している課題や不平等の原因を解決するために、すべてのプロジェクトに、ジェンダーの視点を取り入れて児童婚や女性性器切除（FGM）といった女の子特有の課題解決にも取り組んでいます。
丸眞は、プラン・グローバルサポーター活動に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

PLAN INTERNATIONAL

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

対象商品のご購入が、世界中の女の子を守る活動に繋がります。

対象ブランド

「メニーメニー®」

「Many Many（メニーメニー）」
国々をモチーフに個性あふれる色とりどりであかるいブランド。憧れのあの国や思い出のあの国を添えて、毎日の生活にちいさな幸せを届けるデザイン。

福利厚生による社会支援　ストッキングインナーウェア社内販売

丸眞ではストッキング・インナーウェアの社内販売を行い、購入金額の売上の一部をプラン・インターナショナル様へ寄付させていただいております。今年度(2023 年 9 月～ 2024 年 9 月）は、3,207 円寄付させていただきました。
社内販売という福利厚生が、世界中の女の子の支援に繋がる社会貢献になります。従業員が身近に取り組むことができる社会貢献として取り組みを広げてまいります。

医療福祉支援

小児がん、重い病気と闘う子どもたちと家族の支援のために

日本において、事故を除いた子どもの死亡原因の第一位は小児がんと言われています。
今日では医療技術が飛躍的に発達したとはいえ、がん治療は子どもたちにとって長くつらいものであることに変わりはありません。特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズは革新的な心理社会的支援プログラムを通じ、小児がんや重い病気と闘う子どもたちとそのご家族をサポートする活動をしています。
丸眞は NPO 法人シャイン・オン・キッズ様に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

shine on!
シャイン・オン！キッズ

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

対象商品のご購入が、小児がんや重い病気と闘う子どもたちのサポート活動に繋がります。

対象ブランド

©Moomin Characters ™

「ムーミンのタオルを作ろう！®」

「ムーミンのタオルを作ろう！」認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズ様、ライツ・アンド・ブランズ様のご協力のもと、子ども達とムーミンのタオルを企画・デザイン。取り組みを通して、小児がんや重い病気と闘う子ども達やそのご家族のことを知っていただくきっかけを目指す。

©Moomin Characters ™

医療福祉支援

医療的ケア児が安心感を持って自分らしく生きられる社会の実現を目指して。

現在、国内で約2万人と言われている「医療的ケア児」ですが、まだ世間一般で存在自体も広く知られているという状態ではありません。日本の新生児医療の発展と共に、今まで救えなかった命が救えるようになった反面、特殊な医療行為を自宅で行う子ども達はこの10年で2倍に増えました。NPO法人アンリーシュは、医療的ケア児とご家族に情報や繋がりを届け、安心感を持って自分らしく生きられる社会の実現を目指す団体です。
丸眞はNPO法人アンリーシュに賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。

unleash
アンリーシュ

▶▶▶▶ 活動の詳細はこちら

対象商品のご購入が、医療的ケア児とご家族を支える活動に繋がります。

対象ブランド

to: alla
「トアラ®」

「to:alla（トアラ）」は「本当に必要なものを必要とされているところに届けられているだろうか？」という 自分たちへの問いかけから生まれたブランド。日々の暮らしの中にある様々な凸凹を発見し、みんなと一緒に心地よく使える商品を展開。インクルーシブデザインの観点で商品企画段階からリードユーザーと共につくることに重きを置き、「医療的ケア児」に着目した商品開発を行っている。

支援・協力

医療的ケア児とその家族、ケアの現場で働く皆さんとの対話や活動への参加などから、日々の暮らしの中に潜む凹凸や工夫を学ばせていただいています。

チア！アート CHEER!ART

チア・アートは医療・福祉を応援する（チアする）アートやデザインを展開しているNPO 法人。インクルーシブデザインのアドバイザーとして本プロジェクトを支援。

オレンジキッズケアラボ Orange Kids' Care Lab.

福井県福井市で重い障害や日常的に医療的ケアが必要な子ども達の通所施設を運営。制度にはない支援も含め様々な活動を実施中。

監修

「to:alla（トアラ）」の医療福祉プロジェクトについては、アートディレクターとして tona の河東梨香様、プロジェクト調査のアドバイザーとして NPO 法人チア・アートの岩田祐佳梨様に監修いただいております。

河東梨香
tona LLC. 代表 / 医療福祉ビジュアルディレクター
北欧など多数の国や文化の中で暮らした経験を活かし、医療福祉分野をはじめ、幅広い領域で色と素材感を大切にしたものづくり・空間づくりを実践。
https://tona.rikakawato.com

岩田祐佳梨
NPO 法人チア・アート理事長／筑波大学芸術系准教授
筑波メディカルセンター、筑波大学附属病院をはじめとする医療機関や特別支援学校など、茨城を中心に、アートやデザインによる病院環境の改善を目指した研究と実践に取り組んでいる。https://www.cheerart.jp

LLP商品寄付金額（2023年9月～2024年8月）

今年度も丸眞の Long Lasting Products へご支援いただき誠にありがとうございました。寄付対象商品の種類や、ご購入いただけるコンシューマーの方々も増え、団体様への寄付金額も増額することができました。丸眞のオリジナルブランドを通して一人でも多くのコンシューマーに社会支援について少しでも興味を持っていただくことが私たち丸眞の使命でもあります。今後もコンシューマーの皆様に満足していただけるような、未来を紡ぐ商品開発に努めてまいります。

LLP総寄付金額実績

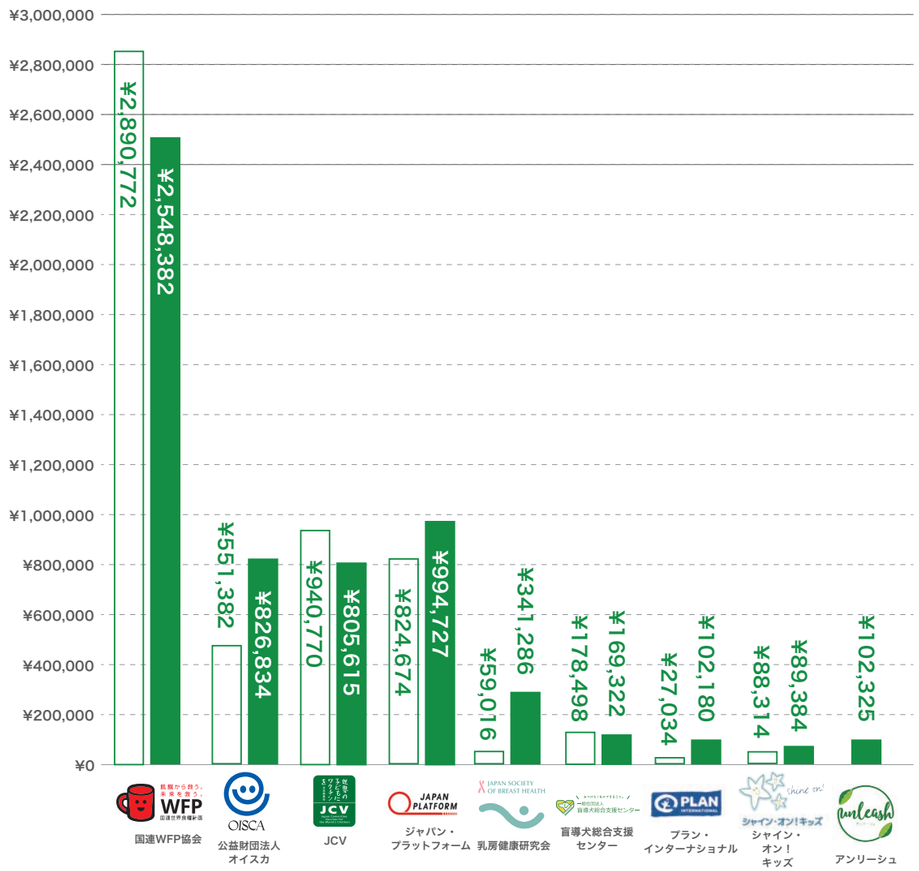
2022年9月～2023年8月寄付額

2023年9月～2024年8月寄付額

¥5,980,055

(昨年実績¥5,560,460　昨年対比107.54%)

(総寄付額¥17,925,346)



寄付金額により届けられた給食・ワクチンの個数

LLP寄付金額により子どもたちに届けた給食
(30円で1食分の給食)
寄付金：¥2,548,382
84,946食

対象ブランド

LLP寄付金額により子どもたちに届けたワクチン
(20円でワクチン1つ分)
寄付金：¥805,615
40,280本

対象ブランド

寄付金額により貢献できる取り組み

乳がん検診を受けられる女性の人数
(1回約5,000円)
寄付金：¥341,286
68人

対象ブランド

環境教育キャンプに参加できる子供の人数
(1回約2,000円)
寄付金：¥826,834
413人

対象ブランド

災害地域に届けられる
2リットル飲料水の数
(100円で1本)
寄付金：¥994,727
9,947本

盲導犬ユーザーへの
声かけパンフ※を作成できる部数
寄付金：¥169,322
16,000部

※盲導犬ユーザーへの声かけの方法が学べるA6サイズ(横10.5×縦14.8㎝)の持ち歩きに適したサイズのパンフレットです。

対象ブランド

毎年36,000円の寄付で
配布出来る衛生キット
寄付金：102,180
39人分※

※毎月3,000円(1年で36,000円)で1年間衛生キットなどを受け取れる女の子が14人になります。

対象ブランド

チャリティーブース販売に参加される
子どもたちとその家族の交通費補助
(一家族2000円補助)
寄付金：¥89,384
44家族

©Moomin Characters ™

対象ブランド

難病家族に向けた情報メディアの運営
寄付金：¥102,325

対象ブランド

Social / Recycle

国外災害緊急支援 2023

2023 年 2 月 6 日 (月) にトルコ・シリア国境沿いで発生しました大地震につきまして、長年にわたり両国と連携をとり支援をされている国連 WFP 協会の活動に賛同し、国連 WFP 協会を通して両国への緊急支援をさせていただきました。大地震では、3 万人を超える死者と多くの負傷者を出し、被災地で食料支援をはじめ緊急性を伴う様々な支援が必要とされている状況です。国連 WFP 協会はシリアでは 1964 年から、トルコでは 2012 年から活動を続けられています。弊社としても少しでも被災地の力になりたいと思い、国連 WFP 協会を通して支援をさせていただきました。

国内災害緊急支援 2024

2024 年 1 月 1 日 (月) に発生しました能登半島地震につきまして、石川県の 6 つの自治体へ、当社のタオル製品を 31,200 枚、毛布を 5,900 枚、支援物資として提供させていただきました。
1 月 3 日 (水) に能登町、内灘町へ自社トラックにて運搬・社員で現地での荷下ろし等させていただき、1 月 3 日 (水) から 5 日 (金) の 3 日間に渡り、能登町、輪島市、中能登町、内灘町、宝達志水町、羽咋市へ協力会社便にて上記のタオル、毛布、食糧品・生活用品を支援物資として提供させていただきました。
現地では余震も続いており、油断が許されない状況の中で、厳しい冬の寒さの中、避難生活を送られている方が多くいらっしゃいます。少しでも当社の商品で寒さをしのぐことができ、日常生活を取り戻すための一助となりたいと思い支援をさせていただきました。

24 時間テレビ
チャリティーイベント出店

2023 年 8 月 26 日 (土)、27 日 (日) に放送されました 24 時間テレビに際して、弊社本社のある愛知県のメイン会場、中京テレビ様本社横で開催されましたチャリティーイベントに弊社のブースを出店いたしました。ブースでは参加社員一同、チャリ T シャツを着用し接客を行い、弊社商品を販売し、売上の全額をチャリティーとして 24 時間テレビ様へ募金させていただきました。
今後も商品や社内外での取り組みを通して、社会貢献へ繋がる取り組みをできることから進めてまいります。

廃棄されるものから生み出す

日々の生活で廃棄されるゴミは１日あたり１人約 920ｇ 、また、１年で日本のごみは東京ドームの 115 個分と言われています。丸眞ではそのような廃棄物を従業員から回収し、ゴミにするのではなく次へ繋げられるようなリサイクル活動と社会貢献活動に取り組んでいます。また、違うものへとリサイクルするだけではなく、子ども達の未来や地球環境を守る活動へと繋げています。

使用済み切手回収　切手 53 枚がちいさな命を救うきっかけとなる

ペットボトルキャップと同様に使用済み切手を寄付し、途上国の子どもにワクチンを贈る支援を行っています。使用済み切手を 認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV) へお送りし、海外のコレクターに送り、売却益でワクチンを贈っています。日々会社や家に届く郵便物をただ受け取るだけでなく、そこに救えるちいさな命があるという認識を持ち、今後も積極的に取り組んでまいります。

期間：2023 年 9 月 ~ 2024 年 8 月　回収した使用済み切手 … 22,290 枚
ワクチンを届けられた子ども … 420 人
累計期間：2022 年 6 月 ~ 2024 年 8 月　回収した使用済み切手 … 43,353 枚
ワクチンを届けられた子ども … 817 人

プラスチックハンガー回収　プラスチックが及ぼす環境問題を制御する

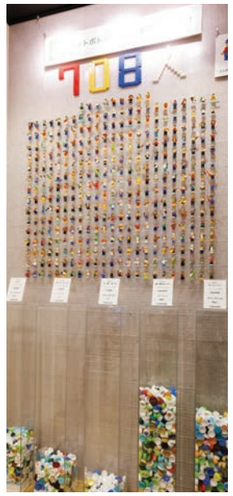
自社の物流センターでは、商品に付属しているプラスチックハンガーが不要になった際に破棄してしまうのではなく回収を行っております。プラスチックゴミの破棄は地球温暖化や海洋問題に深刻な影響を与えているのが現状です。回収したプラスチックハンガーは認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV) の子どもワクチン支援活動へ寄付させていただいております。

不要になったモノをそのままゴミにしてしまうのではなく、環境を守るために次に繋げられることはないか考え、事業の中でも身近なことから今後も取り組んでまいります。

期間：2023 年 9 月~ 2024 年 8 月　回収したプラスチックハンガー … 53.14kg
ワクチンを届けられた子ども…26 人
累計期間：2021 年 9 月 ~ 2024 年 8 月
回収したプラスチックハンガー … 1073.14kg
ワクチンを届けられた子ども … 537 人

ペットボトルキャップ回収　ペットボトルキャップを集めてちいさな命を救う

丸眞では従業員が持ち寄ったペットボトルキャップを回収することで、認定 NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)の子どもワクチン支援活動に参加しています。JCVは開発途上国の子どもにワクチンを贈り、世界の子ども達の未来を感染症から守る活動をしています。SDGsのゴール3にもあるように、すべての人に健康と福祉を実現するべく、身近でできる取り組みを進めています。



期間：2023 年 9 月~ 2024 年 8 月
回収したペットボトルキャップ … 608,342 個
ワクチンを届けられた子ども … 708 人
累計期間：2022 年 6 月~ 2024 年 8 月
回収したペットボトルキャップ … 1,321,042 個
ワクチンを届けられた子ども … 1,536 人

巻き芯回収　巻き芯を集めて地球の自然を守る

物流機能を持つ丸眞では、通常廃棄となる使用済み粘着テープの巻き芯を回収し、段ボールとして再利用したり、森の植樹活動の支援に繋げる「ニチバン巻き芯ECOプロジェクト」に参加しています。

このプロジェクトでは、回収した巻き芯をダンボールに再生した利益で、マングローブの樹林や、植林や間伐など適切な手入れを行うことで、空気や水をきれいにしたり、土砂災害を防ぐ、「森のしずく」保全活動に役立てています。

物流にとって必要不可欠な資源であるからこそ、使って終わりではなく、次に有効に使う取り組みを進めています。

感謝状
丸眞株式会社　殿

→替芯ECOプロジェクト
詳細はこちら

期間：2023 年 9 月~ 2024 年 8 月
回収した巻き芯 … 10,811 個
累計期間：2022 年 6 月 ~ 2024 年 8 月
回収した巻き芯 … 45,962 個

第三者意見

SUSTAINABILITY REPORT 2025
株式会社 オフィスグラビティー
代表取締役　中川 優

「MARUSHIN Sustainability Report2025」の報告内容について評価し、第三者としての意見を述べる。本レポートには、「丸眞のサステナブル方針」で謳われている“選ばれる企業”を目指すと共に、“Future Vision 2030”の実現に向けたトップステートメントが明確に述べられている。

持続可能な「繊維産業」の未来

かねてより繊維・アパレル産業は、エネルギーや水の大量使用、在庫の廃棄等による環境負荷が大きいビジネスとの指摘があった。そのため EU 委員会は 2022 年 3 月に「持続可能な循環型繊維戦略」(EU Strategy for Sustainable and Circular Textiles)を公表、2030 年までに EU 域内で販売される繊維製品に対して「耐久性」があり、「リサイクル可能」で、「リサイクル材」を使用し、「懸念物質」を含まず、「労働者の権利」に配慮したものにすると宣言した※1。また 2023 年 12 月には「エコデザイン規則案」が合意され「未使用の繊維製品の廃棄禁止」が規定された。
これを受け経済産業省では、グローバル競争力強化を目的に「繊維製品の環境配慮設計ガイドライン」(2024 年 6 月)を制定した。このガイドラインは、繊維産業のサプライチェーン各社が取り組むべき「環境配慮設計項目」、「評価基準」や「評価方法」等を定めたものである。
このように国内外で繊維を取り巻く経営環境が急速にサステナビリティへとシフトしつつある。
※1 ：JETRO ビジネス短観(2022 年 04 月 04 日)
https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/04/a5dc1b749bd99990.html

懸念物質、新たなリスク

エコデザインに関しては「新たな懸念物質」がリスクとして浮上してきた。PFAS (4730 種を超える有機フッ素化合物の総称)である。この化合物は撥水(はっすい)性・難燃性などに優れ、国内外の多くの産業で幅広く使用されている物質である。しかし自然界では分解せず水などに蓄積、人への毒性も指摘されたため、国内では 2021 年までに製造と輸入が原則禁止された。
ところが日本の複数の地域の水源が PFAS に汚染されていることが判明、規制強化が検討されている。
それに先立ち、丸眞においても取扱商品への PFAS の利用状況を調査すると共に、速やかにステークホルダーと情報共有することが望ましい。

マニフェストの達成、2025 年は勝負の年

丸眞において、このサステナビリティ対応の象徴といえるのは「マニフェストの達成度」である。2030 年がマニフェストの達成年度となっており「あと 5 年」と納期が迫っている。2024 年 8 月の段階では 6 つの目標は概ね「10 ～ 35%」の達成率(見込)であり助走期間であったといえる。2025 年は何れも概ね「45 ～ 50%」の達成を予定しており本格的に目標達成の目途をつける重要年度となっている。引き続き、目標達成に向けた進捗状況について期待を持ってウォッチしていきたい。

LLP 総寄付金額 7.5%向上

次に、サステナビリティと丸眞商品の結びつきのバロメーターとなるのは LLP 総寄付金額である。この実績金額は前年度(56 期)と比較して 7.5%拡大しており、8つの商品毎※2 の比較でも同様に【増加 5/ 減少3】と成長基調となっている。(2024 年 8 月時点)
ただ実績を落としている社会支援につながる商品に関しては、その原因又は背景等の説明の記載があることが望ましい。
なお今後はＬＬＰ商品の支援団体との連携強化を計画中とのことであり、机上中心から現場へと関係が深耕することは、サステナビリティ活動の質的成長を促す意味で大変好ましく、その動向もぜひレポートされたい。
※2：国連 WFP 協会、オイスカ、JCV、ジャパン・プラットフォーム、乳房健康研究会、盲導犬総合支援センター、プラン・インターナショナル、シャイン・オン！キッズ

「幸福」、変わるサステナビリティの中心点

2030 年で役割を終える SDGs の次期計画は “Well-Being” (Sustainable Well-Being Goals：SWGs) がアジェンダになることが検討されている。「ウェルビーイング」※3 は、”よい” の「Well」と” 状態”の「Being」を組み合わせた言葉で、一般的には「健康」「幸福」と訳されている。企業のサステナビリティ対応も、既に「人間の幸福」方向に進んでいることは、様々な状況証拠からも明らかである。つまり「サステナビリティ」自体も成長や変化をしているのだ。
本レポートが、サステナビリティを起点とした、丸眞の成長に貢献することを期待している。
※3：WHO(世界保健機関)では「個人や社会のよい状態」と定義

第三者意見の手続き

株式会社オフィスグラビティ— は、丸眞株式会社より「サステナビリティ・レポート」(以下、本レポート)に対する第三者意見の依頼を受け、これを実施しました。独立・公平の立場から、本レポートの報告内容について評価を行い、その基礎情報をもとに本意見書を作成しました。本レポートは「 GRI スタンダード」(以下、「 GRI 」)に準拠していませんが、報告された一般開示事項、経済 環境 社会開示項目を部分的に参照しました。よってオフィスグラビティ が、本レポートに公開されている定量及び定性情報が一般に普及している作成基準に準拠して正確に算定及び記載され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。

SUSTAINABILITY REPORT 2025

社名 丸眞株式会社

報告対象期間　第57期2023年9月~2024年8月

報告書発行　2025年1月

作成担当　丸眞株式会社

丸眞株式会社のサステナブル活動の取り組みにつきましては
丸眞株式会社CSRホームページを
ご確認ください。